

【概要報告】美濃市 将来の学校のあり方検討会（第3回）

日時：令和6年1月16日（火）19:00～

会場：美濃市防災中央コミュニティーセンター

司会：美濃市教育委員会 教育総務課課長補佐

1 挨拶（美濃市教育委員会 教育長）

美濃市教育委員会は、中学校の制服のこと、学校選択制のこと、不登校対策のことなど、本年度いろいろなことに取り組み、マスコミでも取り上げられてきた。今までと同じことをしては未来に向かう子供たちに力をつけることができない。例として、先生が教えない授業に取り組んでいることは、勉強が苦手な子にも学力をつける一つの方途と考えている。

教育委員会として、今後の教育のことを本当に考えていきたい。この会に課せられたことも5年10年後の美濃市の学校を考えることになる。よろしく願いたい。

2 前回検討会の概略報告と資料提案（事務局）

- (1) 答申素案の提示
- (2) 素案作成の経緯説明

3 検討

今日の検討会は答申の骨組みをつくり、次回答申原案を検討することになる。今日はたくさん意見を出していただきたい。

- 1 素案にある「地域の人々」という言葉は、ボランティア活動の人のイメージが強いが、これは小学校的などらえで、中学生は仕事をしている人のイメージを抱く。小学生は見守るとか育てると感じるのだが、地域で生き生きと仕事をしている人々と中学生との触れ合いでは、学ぶとか未来とかにつながる感じになる。
- 2 小学生にとっては地域の人というと「にわかを教えてくれる人」。高校生との触れ合いもあるので、そういうことも地域の人との交流だと思う。
- 3 地域の人というと、部活動を教えてくれる人という感じも強い。美濃小のにわか、中有知小の大根など、子どもたちに積極的に関わりたいが、こうやって関わるためにはきっかけが欲しい。
- 4 挨拶運動で昭和中に行った。子ども達は地元の人が誰か分からない。普段は仕事があるので、生徒が学校にいる時間に学校へ行くことができない。“学校へ行く日”でもつくとしないと保護者は学校へ行けない。

- 5 地域のボランティア「スマイルさん」として、小学校家庭科のミッションのお手伝いで何人かの母親が小学校に入った。学校からの募集がかかると学校へ行きやすい。魚の水槽の掃除といった募集でもよい。
- 6 町民運動会がなくなった。あれはとても良い地域の人々のふれあいの機会だった。学校から声をかけてもらうことで住民が関わるができる。今日も小学校で挨拶運動があって学校へ行った。子ども達があいさつしても地域の人たちから返事が返ってこないという声を聴いた。なかなか難しいことだが。
- 7 学校の方向性を今考えている。地域との関係はすべての市民を対象とするのが良い。小学生があいさつをしても返してくれない大人がいるが、そういう地域の人も巻き込んでやっていく、そんなイメージの学校をつくっていかうという感じで話を聞かせてもらった。
- 8 子どもたちの安心や安全の問題がとても大切。登校に 20～30 分かかる小学生もいる。暑い季節には熱中症の危険もあり、学校から遠い地区の子どもたちは下校が心配だ。今後、学校の再編成があれば、登下校の安全確保についても答申で触れたい。地域の方が「気を付けてみてみよう」と思ってもらえると嬉しい。
- 9 学校の近辺に公共施設を併設することは現実的には難しいかもしれない。しかし、子どもにとっては逃げ込める場所は大切で、コンビニのように水を買って飲める、寄り道できる場所があるといい。
- 10 子ども 110 番の家は市内にあるが、実際に活用されているのか。
- 11 子ども 110 番の地図が貼ってあるが、110 番の家を増やしてはどうか。
- 12 安心・安全の項目に言葉を加えて、イメージできるようにしたい。
- 13 子どもの安心・安全を学校だけが担うのは避けたい。市役所、図書館、コンビニ、未就園児施設、子どもたちの習い事ができる教室や外で遊べるグラウンドなど、いろんなところがまとまっていることが良い。美濃市にあった児童館もなくなり、放課後の小学生が子どもだけで行けるような施設がない。良い施設をつくっても、子どもが活用できないと意味がない。
- 14 災害施設には国からの補助がたくさん出るといふことのようなのだが、未就学児も含めていろんな人が集まって交流できるような場所が欲しい。「〇〇へ行っているのなら安心できる」といふような施設が。小倉山の図書館も古いし。

- 15 自分が子どもの頃は、学校から家に帰ると、もう一回学校へ行っていた。今も、小学校によってはそういう姿を見ることができる。人が人を呼び、どの子どもも放課後の時間が充実するようにしてやりたい。地域によって偏りができないように考えないといけない。
- 16 土日の学校は、体育館だけ借りるようなことはできるが、基本的に閉じている。公共施設にどのような機能をもたせるのか。子どもたちにとって有益な機能をもたせたい。そこを整理して民意を問うようなことも市は考えなければいけない。放課後の大人の関り方などを工夫して、2「地域とのふれあいのある学校」にしたい。快適なものにしないと子どもは行きたがらない。
- 17 小学生のことは多く話題になっているが、中学校の将来像に期待することは何か。高校受験、学力など勉強面のイメージが強いが、中学校も学校のあり方を描くことが大切だと思う。
- 18 大事なものは「自分で何とかする力」だと思う。子どもたちは、ずっと美濃市に必要はないが、学校教育で広い視野を身につけることはとても必要だ。美濃市内の大人や、美濃市出身の方との触れ合いで可能性を広げることできる。子どもが化粧をしても、おしゃれをしても良いと思う。それより、憧れる大人が地域にすることが大切で、中学生は地域の魅力をそこに感じて、視野も広がる。
- 19 中学校は、自分の将来を考える大切な時期。その時期に幼稚園や保育園の園児との交流機会を設けている。高校生ともやっている。一人でも「こんな仕事がしたい」と思う生徒を育てることが大切。その意味で地域の方との交流は大切だ。今は「地域の方＝お年寄り」のイメージが強い。いろんな年代の方との交流ができるとよい。今後、学校が再編成されるようなことがあれば、今の学校を子供の集合場所にしてはどうか。そこに集まった子どもたちを送迎してはどうか。
- 20 市の施設を訪れた方の子どもの相手をする活動をしている。そこに中学生も来て、子どもの相手をしたり、子どもを預かる取り組みをしている活動を理解したりして、社会体験の幅を広げている。中学生が保育に触れる機会にもなり、社会を知る機会にもなっている。
- 21 幼稚園の子どもをもつお母さんたちに 2 時間の自由な時間をプレゼントする活動を中学生がやった。保護者も手伝いに来てくれたが、中学生は上手に子どもの相手をしていた。大村はまさんという教育学者の方が、「小学校は子どものための学校。中学校は大人になるための学校」と言っていたが、まさにこのことだと

思う。中学校ではこうやって幅広く学ぶことが大切で、その前の段階として小学校では地域の方との触れ合いを経験することが意味をもってくる。子どもたちには学びの機会を多くつくりたい。

- 22 素案にもあるように、成長とともにより多くの仲間と関わる機会があることは大切。特に中学校では、子ども相互がもっと交流できると良い。今、部活動では合同でやっている種目もあるようだが、それ以外のところでは交流がないように思う。「昭和中と美濃中の交流運動会」のような機会もつくることができると良い。中学校の生徒会に100万円預けて、盛り上がることや生徒が率先して取り組もうとすることに挑戦させても良い。
- 23 中学校の地域連携を考えてみたい。幼保との交流体験に手を挙げた生徒が30人ほどいた。ドローン体験も10人ぐらい手を挙げた。今続けている中学1年生は、自分でプログラミングしてドローンを飛ばしている。制服のネクタイ作りも手を挙げた生徒が取り組んだ。300人の生徒が50～60のグループをつくって、やりたいことができるようにしてみたい。人、お店、企業などの理解を得ながら、学校がバックアップすればできるように思う。
- 24 学校がどれだけブースをつくる事ができるかが問われる時代だ。社会教育主事に情報が集まり、それを学校に届けるようにして子どもの興味をひくことをやっているところもある。先生が自らやるのは大変なことになる。
- 25 先生が子どもと一緒に学ぶこともある。子どもに教えるだけでなく、子どもから先生が学ぶこともある。小学校1年生のころから中学生の姿を見ていることは有益だ。大きくなった自分は何をやりようと思う。興味のある分野を探ることもなる。良い高校、良い大学に入り、就職するような漠然としたあこがれしかもっていない。それより、どういう人間になりたいか、どういう社会貢献がしたいかが描けるような体験をさせたい。人を育てるためには具体的な学びが大切。
- 26 根尾学園の訪問で、5～6年の時間をかけてこの学園をつくったという話を聞いた。何事にも準備が大切だ。今回、答申をつくり、何年後かに具体的に動き出すときには、官民一体となり、行政だけでなく地域の方、企業の方、商工会の方などを巻き込んで進めることが大切。
- 27 今後、答申を具体化する場合は、教育関係者だけの集まりでは視野が狭くなる。いろんな方が参加する中で進めることが必要となる。
- 28 これについて、子どもの意見を聞かなくて良いか。この答申素案は、前回の話し

合いの内容でまとめられている気がするが、これは大人の意見に感じる。子どもはやりたいことに手を挙げる。手を上げない子どもはどう考えているのだろう。

- 29 今後、子どもたちの声も大切にして進めたい。次回は答申の案を提示してもらうことになる。本日の検討会の意見に感謝したい。

【事務局より】

次回は2月29日に本会場で開催する。よろしくお願いいたします。【20:45 終了】